

語り手 大原寿美子さ たわや 「そりやいいこ え、わしの尾っぽへさぼ とをしたと思やあい い」と言つて、目えつぶつとひん を持つていにんされえ」とい と言つた。

昭和51年9月22日収録 明くる日、山ぐまたソ おひいさんは目をつぶ わ」と言つていた。

あらすじ たゞさん、尾っぽへさぼ へ連れて行つてあげるけ んはこちそうになつた。 隣のおじいさんがあ あさん、ソバがえ餅を り、ソバがえ餅を持って行つた。ネズミが出て 来て、うらやましくな ったわけを聞き、「うらも ることができず。その欲 と土産に宝物やなどをしてみよう」と言って帰 ぱりじいさんは死骸になつてしまつた。

バがえ餅を持って行つたり、ついていつたところ そればつちり。

隣の爺が模倣して失敗

昔、おじいさんがおば

あさん、ソバがえ餅を もうつて、畑へ出かけて いた。

昼。昼まま食べようと

したらネズミが来た。

見たら、かわらしかから「おめえにもやろうか なあ」と言つて、ソバがえ 餅をやると、うまそうに 食べる。次々にネズミが 来るものだから、みんな げて自分のはなくなつてしまつた。

ネズミ浄土

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

おじいさんが家にもどつて「今日、ネズミが来たけど、やりよつたら自分は食べようがなかつた。けど、しいことをし

たゞさん、尾っぽへさぼへ連れて行つてくれた。一匹のネズミが「わしらは猫いつもんがごつと好かんじや。ニヤオーい うことだけは言いなさんなよ」と言つた。

そうしたところが、欲 ぱりじいさんなので、宝 がほしくてたまらないから、つい「ニヤオー」

失敗するというのが一般的である。この語りでは、それとは違つて、が、ネズミに見破られて こちらの方がどうやら全

と猫の鳴き真似をした ら、ネズミたちがみな逃 げてしまつた。そうする と、真っ暗になつて、ネズミも一匹もいなさい

解説

山陰両県で語られる内

容は、主人公もネコの鳴

き真似をしてネズミを脅

かし、米とか餅、あるいは宝物などを持ち帰り、

それを聞いた隣の爺が模

倣して同様にふるまう

が、ネズミに見破られて

失敗するというのが一般

的である。この語りでは、

それとは違つて、が、

こちらの方がどうやら全

て、いくら出ようと思う

たって、そこはまつ暗い

し、土の中から少しも出

ることができず。その欲

う」とそれらをかき集め

て、いくら出ようと思う

たって、そこはまつ暗い

し、土の中から少しも出

ことができず。その欲

う」とそれらをかき集め

て、いくら出ようと思う

たって、そこはまつ暗い

し、土の中から少しも出

ことができず。その欲